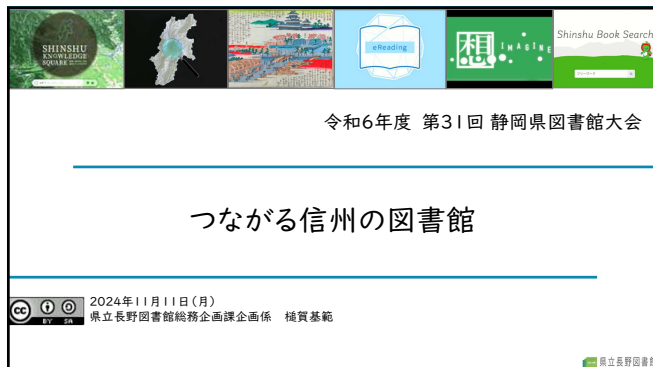
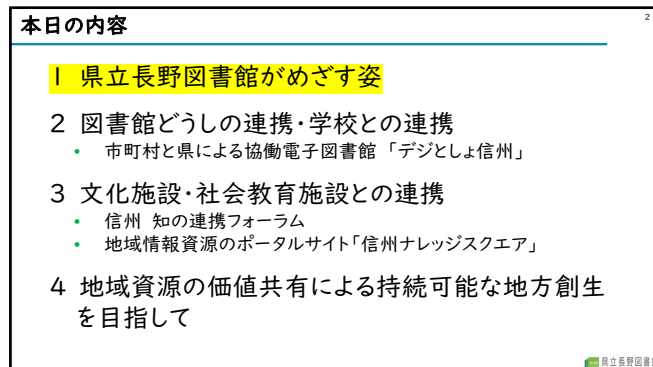
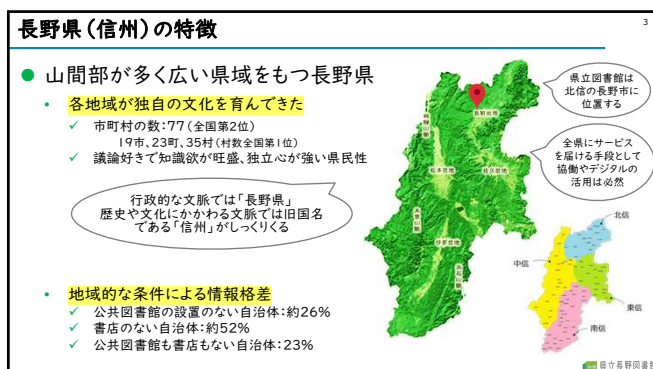




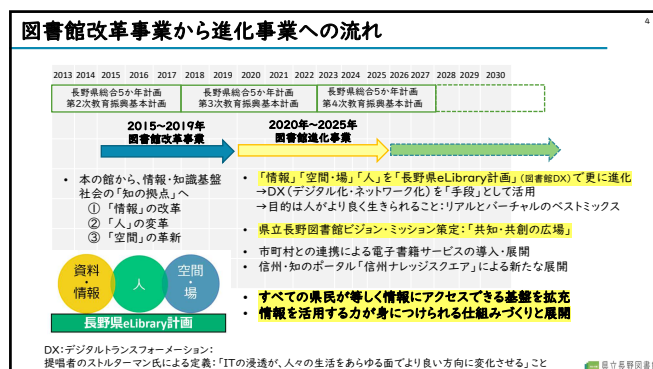
1



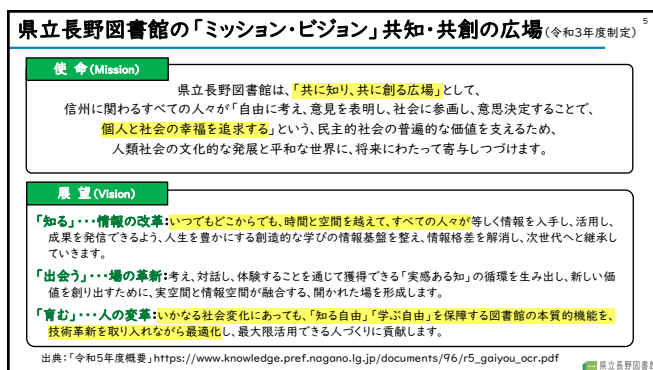
2



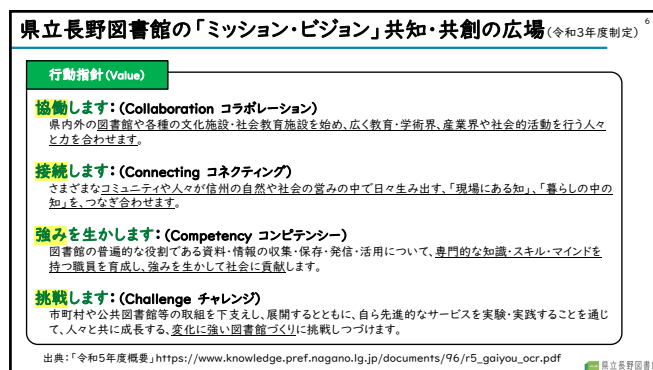
3



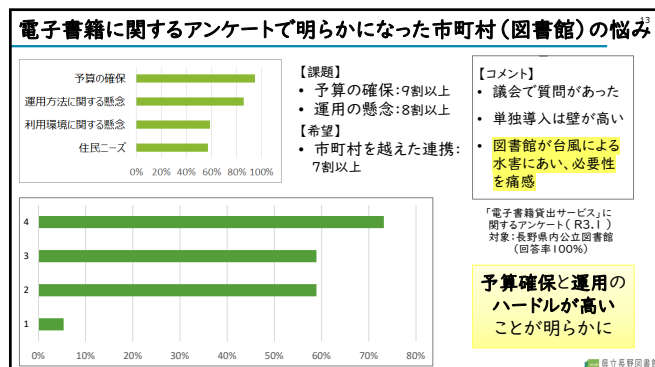
4



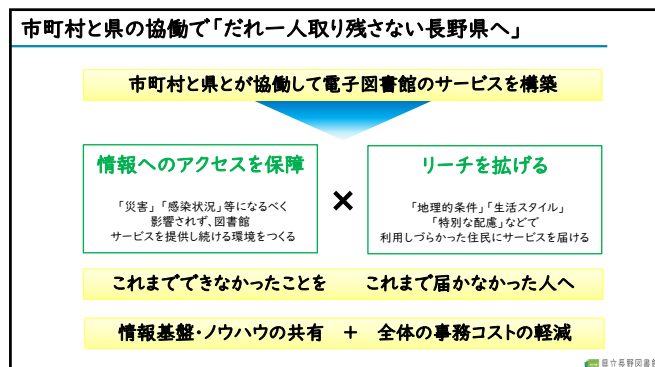
5



6



13



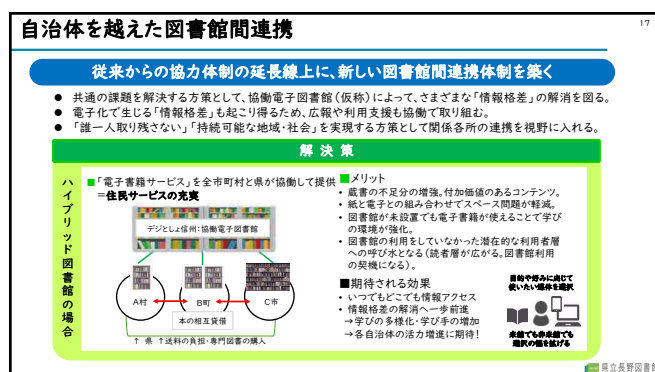
14



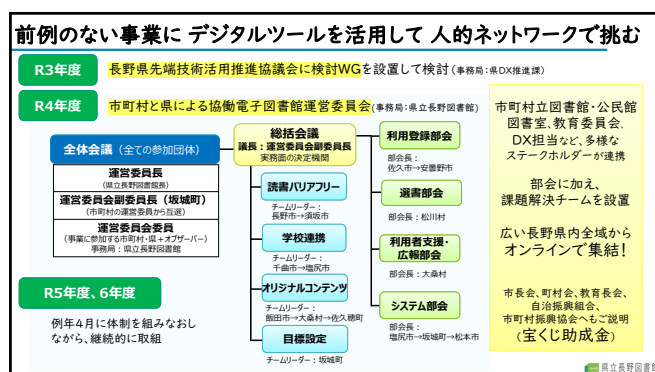
15

- ### 「デジとしよ信州」とは? 公共図書館による電子書籍の貸出サービス
- リアルな図書館で本を借りるしくみとの類似点
 - ・ 利用登録で、本が借りられる、予約ができる
 - ・ 基本的には、一冊の本を同時に一人が借りられる仕組み
 - ・ 図書館がコストを賄い、利用する本人は無償で借りられる
 - 電子書籍ならではのメリット
 - ・ 図書館に行かなくても、365日、24時間いつでも、本が借りられる
 - ⇒ 遠くても、閉まっても、忙しくても、災害や免許返納などで出歩きづらくても、居ながらにして利用可能
 - ・ 文字の拡大ができたり、オーディオブックを耳で聴いたりできる
 - ⇒ 本の読みやすさがアップし、読書バリアフリーにつながる
- 「信州 SDGs」の取り組みの1つに位置付けられている**

16



17



18

コンテンツ選書の手順【コンテンツ内容】から

利用対象は全県民であるが、事業目的にそって、特に以下の利用対象に資することに留意する。

- GIGA スクール構想等で、電子書籍を読むタブレット等を使いやすい環境にある児童および青少年（IT リテラシーが高く電子書籍を利用する障壁が低い傾向があることから、利便性が認知されれば活用されることが期待できる）
- リアルな図書館に足を運ぶことが困難な高齢者や、読書に関わる障害がある方（文字の拡大や読み上げ機能などがある電子書籍を、自宅などから居ながらにして利用できることで、読書環境が改善されることが期待できる）
- 開館時間に利用することが困難な子育て世代やビジネスパーソン（24 時間 365 日、来館することなく使える電子書籍によって、図書館の利用が生活スタイルに馴染まなかった層の読書環境が改善されることが期待できる）

県立長野図書館

19

利用統計でアウトプットを見える化し、その先のアウトカムへ

● 利用者IDのしくみを工夫：

- ✓ 市区町村コード、利用者生年、図書館利用カード番号から生成
 - 市町村ごと、年代・世代ごとの利用実態を見える化
 - ⇒ ニーズ把握、プロモーション、選書方針に活かす
 - リアル図書館との相乗効果を確証
 - ⇒ 新たな顧客層の開拓に活かす

● 投資効率の向上への期待（アウトプット）

- ✓ 住民の図書館利用率、貸出回転率の向上

● 顧客満足度向上への期待（アウトカム）

- ✓ 地域の活性化、課題解決力の向上
- ✓ 地域への愛着、幸福感の向上

エビデンスに基づき
公共サービスとしての
図書館の存在意義を示す

持続可能なサービス
にむけた財源確保

<留意事項>
貸出情報はビッグデータとして統計処理しサービス向上に役立てる。個人のIDと貸出情報は紐づけしない

県立長野図書館

20

利用動向① ID登録数：21,353人（2024年7月末現在の累計）

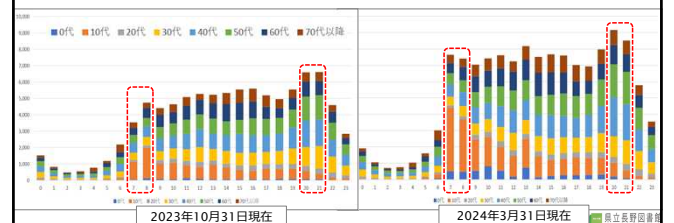


21

利用動向② 貸出数：134,240回（2024年3月末現在の累計）

● 貸出状況の変化

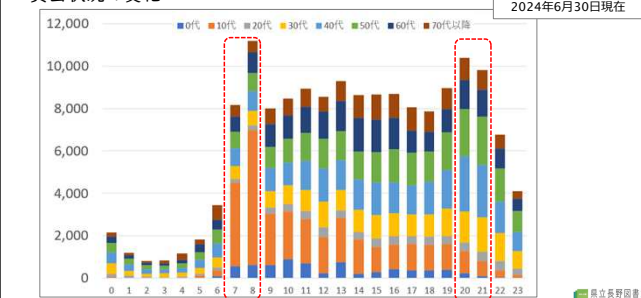
- ・ 開始当初：30～60代の働く世代による閉館時間帯の利用（夜の20～21時台）
- ・ 学校連携が進んだ結果：10代の利用も増加（朝の7～8時台）
- ・ 幅広い年代の県民が、さまざまな時間帯に利用



22

利用動向② 貸出数：155,968回（2024年6月末現在の累計）

● 貸出状況の変化



23

学校との連携を進めていくための工夫

● 学校連携が進んだ要因

- ・ 公共図書館の窓口で登録する原則を持ちつつ、学校連携チームを立ち上げて、利便性をUP!
- ・ 学校の依頼を受け、学校や学年単位でIDを一括登録する仕組みを構築
- ・ 学校と公共図書館のやりとりのフロー図を作成（連携のモデルを提示）
- ・ 学校から保護者の方への連絡のひな型等を作成
- ・ 機会を捉えて、市町村の教育長や教育委員会担当者に対する事業説明を実施

● さらなる利便性を目指して、ID一括登録の対象を拡大

- ・ 従来の小中学校から高等学校、特別支援学校、認証フリースクールも対象に
 - 「市町村と県による協働電子図書館事業利用者ID交付等にかかる取扱いの特例」
- ・ 長野県内の学校等において当該施設の長を通じた利用申込により図書館の利用者カードをいらない場合
- ・ 「学校等」とは、教育基本法第1条に規定するもの及び学校に準ずる教育機関をいう

県立長野図書館

24

学校との連携を進めていくための工夫

●箕輪町からの報告事例

「利用登録に当たっては、町図書館と教育委員会が主導。都度、町校長会、町教頭会、町司書会に丁寧に説明し、調整を図りました。

『安価、簡単、効果的』の三つ、最低でも二つが揃ったものでないと、学校には受け入れられない」と言われます。そこで、利用登録は無料であること（安価）、登録にかかわる手間はほぼないこと（簡単）を先生方に強くアピールしました。登録にかかわる学校職員の作業量を極力少なくするため、当館が独自のファイルを作成し、学校に提供しました。」

25

25

コンテンツ数: 25,432点 (2024年8月20日時点/随時変動)

- 購入: 14,236点 (制限型と買切型が約半ずつ)、
- 青空文庫: 11,196点、地域資料 (オリジナルコンテンツ): 60点
- 市販の本のほかに、各自治体等が発行する学校の副読本や郷土資料なども電子書籍化



26

公共図書館による学校支援・学校連携

●「協働的な学び」

紙と電子、どちらも使える・選択の幅を広げる

- 同時アクセスモデルのパッケージを導入
 - ✓ 残りの回数を気にせず、みんなと同じ本が一斉に読める!
 - ✓ 講談社: 小学生向け50種類、中学生向け50種類 (～R6年6月まで) ⇒ 小学生向けを更新
 - ✓ 理論社: 「調べ学習」50点パック
 - ✓ フレーベル館: 「しらべる・学べる」パック (～R7年2月まで)
- 学習成果をオリジナルコンテンツとして発信することも可能!



27

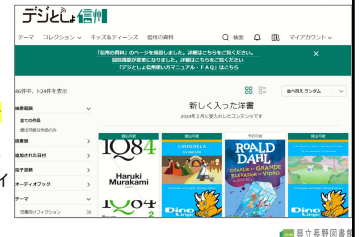
27

公共図書館による学校支援・学校連携

●「個別最適な学び」

読書バリアフリー+αの学びに向けて

- 英語の電子書籍 (約1,000種)
 - ✓ オーディオブック: 88種
 - ✓ 読み上げ機能付き: 213種
- 他言語 (ポルトガル語等) も増加中
- 聴覚障がいの方の体験会等 (手話通訳付き) の実施
- 視覚障がいの身体障害者手帳をお持ちの方の方向け「アクセシブルライブラリー」



など

28

読書バリアフリーのさらなる充実に向けた前進

● 視覚障がいの身体障害者手帳をお持ちの方の方向けの電子図書館

「アクセシブルライブラリー」の導入

- 電子書籍を音声自動読み上げで提供

※盲学校や長野県視覚障害者福祉協会等とも連携

QRコードを読み取ってかんたんログイン



- 今後も、さまざまなバリア解消に向けて取り組んでいく

- 外出がしにくかったり、身体的・地域的・経済的などの要因で読書が困難な人へ、読書環境を届ける

- 小さい村でも、同じサービスを提供できるのは、「デジとしょ信州」をみんなでやっているおかげ!

図書館現場の声

県立長野図書館

29

それぞれの自治体、それぞれのカタチ ①学校との連携

●高森町 (高森北小):

- 1年生全員がリアル図書館に登録
- 3年生で全員がデジとしょ信州に登録
- 地域資料の電子化にも力を入れる



紙とデジタルの自発的な使い分け



●佐久市 (野沢小学校):

- 英語の本の読み聞かせて、ネイティブスピーカーによる読み上げ機能を活用して練習 (小学校5年)



デジタルの特長を活かした学び

県立長野図書館

30

それぞれの自治体、それぞれのカタチ ①学校との連携

- 塩尻市(丘中学校):**
 - 同時アクセスモデルの「児童生徒用読み物セット」導入に合わせ、全校読書の時間に電子書籍でも紙の本でも読書ができる環境を整備
- 長野市(松ヶ丘小学校):**
 - 担任と学校司書の協力で、社会見学を契機として、児童と家庭へ図書館の利用を案内、「デジとしょ信州」の登録を促進

同時アクセスモデルなら大勢で同じ本が読める

児童が「デジとしょ信州」に親しむためのワークシートで効果的な活用が実現

31

それぞれの自治体、それぞれのカタチ ②地域との連携

- 大桑村:**
 - 村立図書館の開館(2022年9月)に合わせて**電子書籍も同時スタート!**
- 生坂村:**
 - 物理的距離をデジタルで解決
 - 住む場所でのライフスタイルを我慢しない
 - 村誌や地域の偉人のマンガで地域の魅力を発信

大桑村図書館

住民登録率県内1位! 相乗効果を目指す

地域資料を電子化

32

それぞれの自治体、それぞれのカタチ ②地域との連携

- 松川村:**
 - 地域おこし協力隊の方のご協力により、公民館と図書館の共催で、「デジとしょ信州登録・活用講座」開催(「国民のデジタルリテラシー向上」補助金活用)
- 天龍村:**
 - 天龍村くらし安心ICTネットワーク事業で、希望される65歳以上の住民及び障がい者の方にタブレットを配布
 - 「緊急」「ラジコ」などと一緒に「デジとしょ信州」のアプリをインストール!

電子図書館に登録しよう

公民館と共催でデジタル・ディバイドの解消へ

暮らしの安心に+αの楽しさを!

33

県民から寄せられた声と大切にしていきたいこと

リアルな図書館+デジとしょ信州ですべての住民の「読書・学びの基盤」の充実と「公正な社会」づくりに寄与していきたい

働く世代(SNS、新聞の投書等より)

- 隙間時間が**読書タイム**となり、読書量が一気に増加
- 普段読まないジャンルにも**挑戦**できる
- 家にいるまま、スマホで本が**借り**られるの快適すぎる
- 入院前に登録**して自分、えらい!

シニア世代(新聞の投書等より)

- 視力が弱いので、**拡大機能**が重宝する
- 心配した文字の大きさや行間など、**高齢者にも優しい**
- オーディオブックもいい、**長く愛用**したい

中学生(塩尻市立丘中学校でのアンケートより)

- 色々な種類の本**が読めるから
- 手軽だから
- クロムだけで見られて**便利**だから
- 図書室に行かなくても**読めて**楽だから

デジとしょ信州は紙からデジタルへの置き換え、集約ではなく、一人ひとりの住民、それぞれの市町村にとっての選択の幅を広げるもの

34

信州ブックサーチの活用による横断的な検索・発見の仕組

県内図書館のOPAC、2つの電子書籍サービスを横断的に検索

Shinshu Book Search

近隣の書店情報へリンクしたい

35

「書店在庫情報プロジェクト」との連携で書店情報へのリンク実現!

書店在庫情報プロジェクト

長野市周辺の書店在庫

7月31日~「書店在庫情報プロジェクト」との連携が実現!

近隣書店の在庫

- 在庫情報を公開している書店は「店舗在庫あり」で絞り込みが可能
- 「長野県書店商業組合」などの連携で、参画して下さる書店さんを増やしていきたい

36

37

本日の内容

- 1 県立長野図書館がめざす姿
- 2 図書館どうしの連携・学校との連携
 - ・市町村と県による協働電子図書館「デジとしよ信州」
- 3 文化施設・社会教育施設との連携
 - ・信州 知の連携フォーラム
 - ・地域情報資源のポータルサイト「信州ナレッジスクエア」
- 4 地域資源の価値共有による持続可能な地方創生を目指して

県立長野図書館

37

38

「信州 知の連携フォーラム」とは

- はじまり
 - ・2016年、長野県立歴史館、長野県信濃美術館（当時）、信州大学附属図書館、県立長野図書館の四者でスタートした、いわゆるMLA連携（Museum, Library, Archives）の枠組み
- 目的
 - ・長野県における知と学びに関わる各種機関が、
 - ・信州における価値ある地域資源の共有化をはかり、新たな知識化・発信を通して
 - ・地域住民の学びを豊かにし、地域創生につなげていく
- 方向性
 - ① 電子情報の共有化と新たな発信の展開
 - ② ①に伴う新たな人材育成

※ 第4回 信州 知の連携フォーラム「わがまち・わが館 お宝情報発信術ー信州ナレッジスクエアの育て方ー」（2020年9月28日）
ご挨拶 <http://hdl.handle.net/10091/00022224>

美術館は、ランドスケープデザインというコンセプトと公開型アートライブラリーの設置を計画

2010年4月に開始した地域文化の総合情報サイト「信州デジくら」を何とかしたいという目的も

県立長野図書館

38

39

電子情報の共有化と新たな発信の展開

- 方向性① 電子情報の共有化と新たな発信の展開
 - 「信州ナレッジスクエア」(R2.4～)
 - ・プラットフォーム(システムの基盤)を県立図書館が受け持つことで、他の機関(県や市町村のMLA)は、コンテンツ創りや活用に注力

1. 信州サーチ: 信州に関わるデジタルアーカイブ、データベース、ウェブサイトの横断検索
2. 信州デジタル commons: 県立の文化施設が所蔵する資料のデジタル化に加えて、信州の人々が営んできた身近な生活の記録を画像や映像で残し「知の共有地」として活用するためのデジタルアーカイブ
3. 知・IMAZINE・信州: 言葉や文章から着想して、複数のデータベースを検索
4. eReading Books: 高校の探究学習『わたしたちの信州学』や、小学校の副読本『わたしたちの松川村』、『池田町ものがたり』『ふるさと宮田村: 郷土学習資料集』のテキストから、新書マップやWikipediaの情報と繋がる
5. 信州ブックサーチ: 長野県内図書館OPACの横断検索システム→電子書籍2種も対象に

県立長野図書館

39

40

「信州 知の連携フォーラム」(長野県の MLA 連携) の取組と成果

- 方向性② ①に伴う新たな人材育成
 - ✓ 2016年以降、毎年フォーラムを開催
 - ✓ 第3回以降、各館がリレー式で実務的なワークショップを開催し、顔の見える関係性を築いてきた

第1回～第2回 フォーラム 2016～2017年度	第3回フォーラム (第1回リレーWS) 2018年度 信大図書館	「信州ナレッジスクエア」 構築2019年度 県立図書館	第4～6回フォーラム (第2～4回リレーWS) 2020～2022年度 県立図書館、歴史館、美術館	第7回フォーラム (リレーWS2回目) 2023年度 信大図書館
「信州ナレッジスクエア」構築2019年度 県立図書館	2020年6月 美術館マセージ 過去・現在を未来へと架橋する 「知のインフラ」を考えていくために	2024年2月 ミッションステートメント 地域資源の価値共有による地域創生 を目指してー過去・現在を未来へと架 橋するために		

個々の機関の立場からの発言

互いを知るためのWS(人材育成)共有できる情報システム基盤の開発

情報システム基盤の活用を前提とした展開・人材育成・フォーラムの開口をいかに広げていくか

県立長野図書館

40

41

MLA連携の定義と意義

- MLA連携の定義
 - ・ミュージアム(Museum)・図書館(Library)・文書館(Archives)の連携のこと。それぞれの頭文字をとってMLAと呼ばれる。いずれも文化的情報資源を収集・蓄積・提供する公共機関であるという共通点を持ち、情報資源のアーカイブ化等の課題を共有していることから、近年、連携の重要性が認識されてきている。
 - ※ 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会「大学図書館の整備について(審議のまとめ)」を要する大学にあって求められる大学図書館像」平成22年(2010)年12月
 - ・ MLA 連携とは、デジタルアーカイブとインターネットによって、MLAの分化という総合の喪失から総合の回復へと向かうことである。
 - ※ 水谷長志、特集、美術に関する知の蓄積と共有化に向けて：人と美術の関わりを豊かにするその語り、確かなために：機私的 MLA 連携論交史試稿、美術フォーラム21、2017、vol. 35、p.127-134
- MLA連携の意義
 - ✓ ある目的のために、博物館資料・図書館資料・文書館資料にかかわらず、そのすべてを利用したい利用者は少なくない。
 - ✓ 同じくメディアを扱う機関が博物館、図書館、文書館に分かれているのは、利用者の都合ではなく、各館の都合である。
 - ✓ MLA連携・融合によるワンストップサービスが求められているという、デジタル技術とネット環境の発展・普及が、このようなサービスを後押ししている。
 - ※ 田中素規、「博物館・図書館・文書館の連携、いわゆる MLA 連携について」、博物館・図書館・文書館の連携、日本図書館情報学会研究委員会編、東京、勉誠出版、2010、p.1-22 (図書館情報学のフロンティア、10)

県立長野図書館

41

42

フォーラムを通じて改めて見えてきたこと①

- MLAの違いについては、当初からお互いに認識があった
 - ・ MLA は特性があり、扱っているメディアの唯一性、不可分性、代替可能性の観点で分類できる
 1. 唯一性・不可分性が高く代替可能性が低い資料: 博物館、美術館
 2. 唯一性・不可分性が低く代替可能性が高い資料: 図書館
 - ・ 共通のデジタル情報基盤(プラットフォーム)を構築する際は、こうした特性を考えなくてはならない
 1. メディア自体をデジタル化(画像化)して共有可能とすること
 2. メタデータ(デジタル化されたメディアの内容や形などを説明するデータ)を整備することの二つの方策が必要。

※ 平賀 研也、「戦略的MLA連携による地域創生」、信州知の連携フォーラム第1回(2016年12月13日)
<http://hdl.handle.net/10091/18094>

県立長野図書館

42

フォーラムを通じて改めて見えてきたこと②

- 共通点より相違点が顕著に。要因は・・・
 - ・ 価値観の違い？ 学芸員、図書館員(司書)、行政職、教員、研究者、市民など、多様な価値観(研究/サービス、保存/利用、文化政策/観光政策/社会教育政策、コスト重視 etc.)
 - ・ 扱うモノの違い？
 - 博物館(文書館)：一点物の資料、図書館：複製物が多い

※調査結果「図書館情報学と博物館情報学：両者の目録に注目して」情報組織化研究グループ
2014年12月例会研究会(2014年12月13日)
<http://josoken.digick.jp/meeting/2014/201412.html>

- ・ 資料(メディア)：何らかのメッセージを伝えるもの
- ・ メッセージ：記号列で構成+記号は単なる形(パターン)
- ・ 記号を実体化させるものが必要→キャリアー
- ・ 資料=メッセージ+キャリアー(新聞=新聞記事+新聞紙)

※田中直樹「図書館情報学と博物館情報学：両者の目録に注目して」情報組織化研究グループ
2014年12月例会研究会(2014年12月13日)
<http://josoken.digick.jp/meeting/2014/201412.html>

デジタル化して
ネットで見られたら、現物を
見に来る動機が低下する!

- 博物館・美術館が扱うモノ：メッセージとキャリアーが切り離せない
- 図書館が扱うモノ：キャリアーが異なってもメッセージを伝えられることが多い
- モノに対する意識の違い=デジタル化やネットワーク経路での提供に対する意識の違い

43

フォーラムを通じて改めて見えてきたこと③

- 利用者の視点
 - ・ 「私はおきの調査をずっとやっていて、実際にそこで対象にするのはMLA全てです。文書が読めなければ研究できないし、書いてある絵画が扱えないければ、その時代に過ごした人々の姿が見えない。学生のころからずっと、調査をしたり論文を書いたりする時には、博物館に行き、図書館に行き、美術館に行ってみて見せてくれと違って、グッと書かれて...というのがある。積年の恨みがどこにある(笑)。だから、ぜったい連携させてやるという想いが個人的にあります。」(発起人の一人：信州大学流通館長)
 - ・ 元々一緒にあった MLA が、様々な歴史的経緯で別々に管理されるようになった事情が伺える。
 - ・ 「MLA 連携が注目されて10年も経つのに、未だにこんな苦勞をさせているのか」と悩んでいる。
- 我々は、何のために・誰のために存在しているのか？
 - **本質への立ち返りと相互理解の必要性を痛感**
 - ・ 第1回、第2回の経験を踏まえ、第3回フォーラムはワークショップ形式に転換
 - ・ テーマ：寺社の MLA を体験する～地域の文化資産を見て・知って・整理して・発信する～
 - 1日目：和古書(刊本)の目録作り、2日目：お寺での寺堂見学と写本の目録作り

※ 森いづみほか、「信州 知の連携フォーラム」におけるMLA連携の試み：長野県内の図書館・美術館・歴史館の取組。
『大学図書館研究』112巻(2019.8) <http://hdl.handle.net/10091/00021756>

44

参考：フォーラムを通じて改めて見えてきたこと④

- 館の経営と「来館利用」の重要性
 - ・ 図書館法：無料の原則
 - ・ (入館料等)
 - ・ 第十七条 公立図書館は、入館料その他図書館資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならない。
教育基本法に謳われる「国民の教育の機会均等」に基づき、基本的な利用が無料であることが最低要件
 - ・ 博物館法：無料の原則と例外規程
 - ・ (入館料等)
 - ・ 第二十六条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。
ただし、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。
 - ・ (参考：公文書館法)
 - ・ 入館料等に関する規定なし→自治体が定める条例(例：安曇野市文書館条例には対価に関する条項なし)

デジタル化の目的は？
来なくても見られること
だけ？ 意味付けは？

扱うモノの特質・「来館利用」の持つ重みを、どう考えるのか

※ 図書館にとっても、資料群と人が集まる空間・場の持つ意味は大きい

45

参考：フォーラムを通じて改めて見えてきたこと⑤

- 館が介在して、資料(情報)と人、人と人を繋げる
 - ・ 物理的な場所の提供
 - ✓ 図書館：閲覧室、展示コーナー、コミュニケーションスペース
 - ✓ 博物館・美術館：展示室、etc.
 - ✓ 公文書館：展示室、閲覧室、etc.
 - ・ 直接・間接的な人的サービス
 - ・ 図書館：レファレンスサービス・レファラルサービス、展示、講演会 etc.
 - ・ 博物館・美術館：企画展示、講演会、ギャラリートーク etc.
 - ・ 公文書館：企画展示、講演会、ギャラリートーク etc.
- デジタルを活用し、資料(情報)と資料(情報)、資料(情報)と人、人と人を繋げる
 - ・ 目録情報の共有化・横断検索→まず存在を知ってもらう
 - ・ モノの電子化(=現物の保全にも有効)・蓄積・公開(付加価値サービス)→魅力を知ってもらう

視点の転換：モノ/中心から学習者・鑑賞者・利用者中心へ

※ 保全/利用、来館/非来館、フィジカル/デジタル等、二項対立ではなく、
両立や相乗効果の道を探る必要性

※ 現物そのもの、風景そのものが失われていく可能性があることへの視座

46

「信州 知の連携フォーラム」(長野県のMLA連携)の取組と成果

- 第3回(信州大学附属図書館) 2019年3月8日(金)～9日(土)
 - 【ワークショップ】信州大学中央図書館セミナー室【オプション】佛法紹隆寺(諏訪市)
 - ・ 寺社のMLAを体験する～地域の文化資産を見て・知って・整理して・発信する～
 - ※ 鈴木 映梨香、羽生将昭ほか、MLAリレーワークショップその1：寺社のMLAを体験する～地域の文化資産を見て・知って・整理して・発信する～、信州大学附属図書館研究、9：213-222(2020)
<https://hdl.handle.net/10091/00021860>
- 第4回(県立長野図書館) 2020年9月28日(月) 県立長野図書館3階 信州・学び創造ラボ
 - ・ わがまち・わが館 お宝情報発信術—信州ナレッジスクエアの育て方—
 - ※伊東 洋輔、折井 匡、清水 茜、進地 律子『「信州 知の連携フォーラム(第4回)」参加報告 わがまち・わが館 お宝情報発信術—信州ナレッジスクエアの育て方—』<https://hdl.handle.net/10091/0002000142>
 - ※ 篠田 尚利『「信州 知の連携フォーラム(第4回)」報告 わがまち・わが館 お宝情報発信術—信州ナレッジスクエアの育て方—』
<https://hdl.handle.net/10091/0002000141>

47

「信州 知の連携フォーラム」(長野県のMLA連携)の取組と成果

- 第5回(長野県立歴史館) 2021年11月11日(木) 県立歴史館 講堂
 - ・ 信州の未来を担う世代に、地域資源(史資料)の大事さ・魅力をどう伝えるか
 - ※ 萩原 泰子、羽生 将昭(信州大学附属図書館)「信州 知の連携フォーラム(第5回)」参加報告『信州の未来を担う 世代に、地域資源(史資料)の大事さ・魅力をどう伝えるか』
<https://hdl.handle.net/10091/0002000722>
 - ※ 中野 亮一、村石 正行、宮坂 到(長野県立歴史館)「信州 知の連携フォーラム(第5回)」報告『信州の未来を担う世代に、地域資源(史資料)の大事さ・魅力をどう伝えるか』
<https://hdl.handle.net/10091/0002000721>
- 第6回(県立長野図書館) 2022年2月21日(火) 長野県立美術館
 - ・ 資料のデジタルアーカイブ化と公開について
 - 一松澤有アーカイブの信州デジタル commons での公開を事例に
 - ※ 木内 真由美、「資料のデジタルアーカイブ化と公開について—松澤有アーカイブの信州デジタル commons での公開を事例に—」信州 知の連携フォーラム第6回 (2023年2月21日) In print

48

「信州 知の連携フォーラム」(長野県のMLA連携)の取組と成果

- 第7回(信州大学附属図書館) 2023年12月7日(木) 信州大学中央図書館セミナー室
 - 記憶<データ>を未来へ〜信州からはじまる文理融合のデジタルアーカイブ〜

※ 東城 幸治(信州大学)『自然科学館の「お宝」生物標本の活用 ―標本は過去をめぐるタイムマシン―』
<https://hdl.handle.net/10091/0002001800>

※ 富樫 均(いづな歴史ふれあい館)『全県地質情報の収集と統合 ―事業提案から実現までの道のり―』
<https://hdl.handle.net/10091/0002001799>

※ 岩井 雅史(信州大学附属図書館)『信州大学附属図書館のデジタルアーカイブの現在とこれから』
<https://hdl.handle.net/10091/0002001801>



東城館長発表スライドより

- 各回の発表資料: 信州大学の機関リポジトリ(SOAR-IR)で公開
- 各回の報告: 『信州大学附属図書館研究』に掲載、SOAR-IRで公開

49

参考: 「博物館法」の改正

- 令和4年の第208回国会(通常国会)において、博物館法の一部を改正する法律が成立。
- 施行期日: 令和5年4月1日
- 博物館法の制定から約70年が経過するなかで、博物館を取り巻く状況は大きく変化し、博物館に求められる役割も多様化・高度化。「博物館制度の今後の在り方について(答申)」を踏まえ、法律の目的や博物館の事業、博物館の登録の要件等を見直している。

博物館法の一部を改正する法律の概要

趣旨

近年、博物館に求められる役割が多様化・高度化していることを踏まえ、博物館の設置主体の多様化を図りつつその適正な運営を確保するため、**法律の目的や博物館の事業、博物館の登録の要件等を見直す**など、これからの博物館が、その求められる役割を果たしていくための規定を整備する。

概要

I 法律の目的及び博物館の事業の見直し

- 博物館法の目的について、社会教育法に加えて文化芸術基本法の精神に基づき、これを定める(第1条)。
- 博物館の事業に、博物館資料のデジタル・アーカイブ化を追加するとともに、他の博物館と連携すること、及び地域の多様な主体との連携・協力による文化観光その他の活動を促し地域の活力の向上に取組むこと等を努力義務とする(第3条)。

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan_hakubutsukan/shinko/kankei_horei/93697301.html

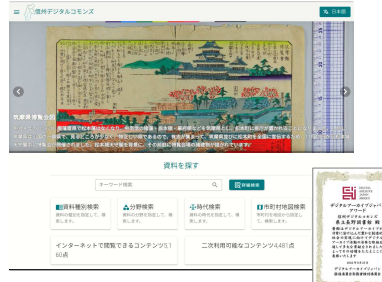
博物館資料のデジタル・アーカイブ化が追加。「地域の活力向上」に向けて、多様な主体との連携が不可欠に

50

「信州デジタルcommons」概要

- 2020年4月〜県立長野図書館が「信州デジくら」のほぼ全てのコンテンツを引き継いでリニューアル
- 県立図書館、歴史館、美術館の所蔵するコンテンツのほか、地域の自然文化民俗に関する動画を公開
 - コンテンツ数: 5,180点
 - 「二次利用可能」なコンテンツ: 4,801点(2024.7時点)
- デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ: TYPE1)を活用し、当館所蔵資料のデジタル化を実施し、コンテンツを充実(R5年度)

※ 著作権保護期間が満了した「パブリックドメイン」が多いが、コンテンツ提供者の意向によって柔軟に対応。
 ※ 二次利用がしやすい公開法やジャンサーズ等とのつなぎ役が評価され、2023年度のデジタルアーカイブジャン・ワードを受賞。



(後) 県立図書館のデジタルアーカイブシステムで構築
<https://www.ro-da.jp/shinshu-dcommons/>

51

「信州デジタルcommons」詳細検索画面

キーワード、資料タイトルや制作者のほか、資料種別、分野、時代、場所(市町村)で検索可能

施設名: 県立図書館、歴史館、美術館に加え、安曇野市公文書館から、地元出身の知識人、清澤菊の「暗黒日記」公開現在、「松澤菊デジタルアーカイブ」のコンテンツ登録に向けて調整中

ライセンス検索: CC-PUBLIC DOMAIN, CC-BY-NC, CC-BY-NC-SA, CC-BY-NC-SA/CC-SA, CC

コンテンツ種別: 書籍, 動画, PDF

※ キーワードを入力しなくても、条件のみで検索可能

52

「信州デジタルcommons」検索結果一覧画面

ホーム / 詳細検索 / 検索結果

検索結果: 3件中1-3件を表示

絞り込み検索

リスト表示 | サムネイル表示 | マップ表示

タイトル	分野	場所	発行日	制作者/作家名	登録日	二次利用条件	施設名
北安曇郡第一回原生生活々道日記	歴史	大町市 / 波田町 / 松川村 / 白馬村	1881	不明	2021-08-02	CC-BY-NC-SA	県立長野図書館
生坂村絵図	歴史	生坂村	1885	長野県	2021-08-02	CC-BY-NC-SA	長野県立歴史館
長野県品目一覧表 第一巻	歴史	長野県	1888		2021-08-02	CC-BY-NC-SA	県立長野図書館

詳しく見たいコンテンツをクリック

53

「信州デジタルcommons」検索結果詳細画面

生坂村絵図

コンテンツ ↓

メタデータ ↓

- 利用の観点から
 - タイトルのほか、分野: 「歴史」「建造物」、場所: 「生坂村」、時代: 「明治」などの情報をメタデータに入れば、検索や絞り込みに見える
- 構築の観点から
 - リッチなメタデータを入れることによって、利便性や発見可能性が高まる半面、データ作成のハードルが上がり、公開までに時間とコストを要することになる
 - ハードルを下げるため、メタデータ入力の必須項目は最小限、「資料コード」と「タイトルのみ」にしている
 - 両者のバランスは、各コンテンツ提供者の判断に委ねる

54

「信州デジタルコモンズ」コンテンツの活用例

「信州デジタルコモンズ」で見る明治18(1885)年の学校の位置

Google Mapで見る令和6(2024)年の学校の位置

生坂村誌(歴史・民俗編)で学校の歴史を確認

「デジタルは信州」(電子書籍)の「生坂村誌(歴史・民俗編)」で学校の歴史を確認

調べていくと紙の資料に辿り着くこともしばしば。頼りになるのは司書さんや学芸員さん

さまざまな電子コンテンツを組み合わせれば学校の歴史を学ぶことが可能

DXの進展とより多くの人の参画で困難を克服できる!?

55

地域文化資源とプレ文化資源(次世代型文化施設フォーラム「提言」より)

文化資源

各館で所蔵/文化財指定されたもの

価値が認識されたもの

パッケージ化された情報

文献資料(主として図書館、公文書館)モノ/資料(主として博物館、美術館)

認識されないもの・こぼれ落ちるもの失われていくもの

DXの進展とより多くの人の参画で困難を克服できる!?

モノとデータの照合・管理が比較的容易

把握だけは何とかしたい...

把握も管理も難しい

2024年現在も情報は生産され続けている

資料の海

※初めからデジタル情報として生成されたもの

56

「信州デジタルコモンズ」登録できるコンテンツ

- **コンセプト**
信州の人々が営んできた身近な生活の記録を画像や映像で残し、「知の共有地」として活用するデジタルアーカイブ
- **登録対象資料**
 1. 前身の「信州デジくら」登録資料、及び「信州デジくら」参加機関が新たに作成したもの
 2. 1.以外の図書館、博物館、美術館等の機関(以下「機関等」という)が所蔵する情報資源
 3. 個人・団体が所蔵する情報資源で、長野県に関する調査研究の対象となるものや地域の記録を後世に伝えることに資するもの
- **登録できるファイル形式:**
 - ・ 画像、音声、動画、PDF
- **規程** <https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/portal/guide.html>
 - ・ 「信州デジタルコモンズ」運用規程
 - ・ 「信州デジタルコモンズ」のデータ登録に関する確認事項

57

「信州デジタルコモンズ」登録の申請

申請書類

機関名、所在地、代表者名等を明記して申請→図書館長名で、申請の受理と管理IDを通知

公的機関の所蔵物である必要はない

例えば民間団体が所有しているコンテンツの場合、公的機関と組んで申請できる

「自館資料」以外に、「公開の寄託を受けた資料」が登録できる

【事例】松澤有アーカイブの場合

- ・ 松澤有アーカイブ運営委員会を設置(委員会の規程を作成)いただいたうえで、申請していただいた
- ・ 連絡窓口や、デジタルアーカイブに搭載するコンテンツの権利処理等、責任の所在を明らかにすることによる持続性や安全性の確保が目的なるべく柔軟に対応する

58

駒ヶ根市東伊那公民館における「区誌」編さんとの連携

- 駒ヶ根市東伊那公民館における、「区誌」編纂の方針

一 目的

- ・ 区民が地域の自然、歴史、文化、伝統、また地域の特性、魅力などについて理解を深め、地域への関心と愛着を持てる
- ・ 区民が地域の自然、歴史、文化等を改めて見直すことにより、将来に向けたさらなる区民の発展と文化の向上に資する
- ・ 地域の有形、無形の史資料を貴重な文化的資産として後世に継承するとともに、現在および将来の活用を図る

一 基本方針(抜粋)

- ・ 事実(史実)に基づきながら平易な文章で区民に分かりやすく、読みやすい区誌(中高生が読みやすいようにダイジェスト版も考えたい)
- ・ 政治、経済に偏ることなく、地域に生きた人々の視点、生きざま(暮らし)が伝わるような区誌
- ・ 写真や図版を多く取り入れ、区民に親しみやすく活用しやすい
- ・ 広く区民に親しまれ、生涯学習や学校教育、地域づくり等で活用される
- ・ 区民や地域との協働を大切に、広く資料提供を求め、調査を区民や小中学生を巻き込み、ともに地域の宝の掘り起こしに務める
- ・ 収集した資料等については、散逸の防止に向けICTを活用しながら適正な整理・保存を行うとともに、区民への公開の仕方や活用方法について検討
- ・ 区民の理解や関心を得るために、編纂状況や編纂過程での成果等について区民に積極的に発信

シビックプライドの醸成につながる

59

駒ヶ根市東伊那公民館における「区誌」編さんとの連携

春日館長発表資料

「公民館を拠点とした地域住民による区誌編纂の取り組み」

～図書館と連携した地域資料のデジタル化事業を核として～」

令和5年度長野県図書館協会 公民館連携部会館長研修(2024.9.15)

現在 編纂作業進行中

A4オールカラー 500ページ(3分冊)

「公民館の仕事なの?」図書館?博物館?学校?従来の縦割りの役割の中に閉じていたら、こぼれ落ち、失われてしまうおそれ

大切なのは、互いの強みを生かしながら仲良くすること!地域の人たちが主役!(当事者性)

ICTで資料のデジタル化も

県立長野図書館のご協力により、今回ご提供いただいた古文書などをデジタル化して「信州デジタルコモンズ」へ登録します。読面では紹介できない資料もQRコード読み取りにより、より多くの情報を知りたげられるようになります。

※ 課題:システムベンダーやサーバが「変わっても、リンク切れを起こさない仕組み」が必要

60

駒ヶ根市東伊那公民館における「区誌」編さんとの連携

地域資料のデジタル化を推進しています『地域の大切な宝』を後世に残しましょう

東伊那区誌編集第41号(R6.4.10)

区誌の執筆と平行して地域資料のデジタル化を積極的に進めています。デジタル研究会を組織し、現在11名で地域資料のデジタル化に取り組んでいます。

デジタル化した資料は、県立長野図書館のデジタルアーカイブにアップロードし、区誌と紐付けすることで広く活用できるようにしていきたいと考えています。その事で世界中に1つだけの東伊那区誌『峯高く』が誕生するのではないかと願っています。

先日もデジタルボランティアの方区内のご家庭から提供された古文書の整理と目録作りに取り組んでいたました。

リンク切れを絶対に防ぎたい

博物館法が改正され、デジタルアーカイブの構築が努力義務になったことを受け、自治体によるデジタルアーカイブはますます増加しています。

JoLC DOIという仕組みが構築されているので導入したい。

銀座三丁目 吉田屋 〇〇
市ヶ谷 佐坂上 〇〇
柳屋 〇〇

県立長野図書館

61

参考：地域振興局や教育委員会との連携でおこす「知の循環」の実例

●「信州ナレッジスクエア」の「eReading Books」とウィキペディアタウン

eReading Books

「eReading Books」は、書籍の本文中に登場する単語やキーワードが自動的に切り出されて、「ウィキペディア」や「新書マップ」などにリンクし、書籍を読みながら同時に表示することのできるシステム

長野県内では、高校や小学校の郷土を学ぶ授業の副読本が、4点、公開されています。

https://ereading.cs.nii.ac.jp/nagano/book/index.html

県立長野図書館

62

参考：地域振興局や教育委員会との連携でおこす「知の循環」の実例

●「信州ナレッジスクエア」の「eReading Books」とウィキペディアタウン

「信州ナレッジスクエア」の「eReading Books」とウィキペディアタウン

例

「わたしたちの松川村」の「安曇節」という言葉から、ウィキペディアの「安曇節」にリンクされている

「安曇節」は項目自体はあったが、内容が少なく、「ウィキペディア」で編集された、情報が豊かなになった

県立長野図書館

63

参考：地域振興局や教育委員会との連携でおこす「知の循環」の実例

●「ウィキペディアタウンin安曇野松川村」(2018.03.03)

●北アルプス振興局の主催で開催

●新規作成

●加筆編集

●「大和田神社」、「安曇野ちひろ公園」、「松川村図書館」

●「安曇節」

地域を学ぶテキストを「eReading Books」で電子書籍として発信。キーワードからウィキペディアにリンク。ウィキペディアの内容自体も、自分たちで編集してより豊かな情報に。

※『池田ものがたり』の「池田学問所」も同様

https://blog.nagano-ken.jp/hokuan/events/7185.html
https://blog.nagano-ken.jp/hokuan/other/7337.html

県立長野図書館

64

「信州 知の連携フォーラム」 ミッションステートメント(2024・2・1)

地域資源の価値共有による地域創生を目指す

「過去・現在を未来へと繋ぐために、「信州 知の連携フォーラム」が目指す姿」

地域住民の「発見・収集・保存・活用」

信州 知の連携フォーラム

MALUTICKSの連携と人材育成

https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/news/mesazukoto-forum/misforum.html

※ 図書館法第3条、博物館法第3条にも諸施設等との連携協力の事項が含まれている

県立長野図書館

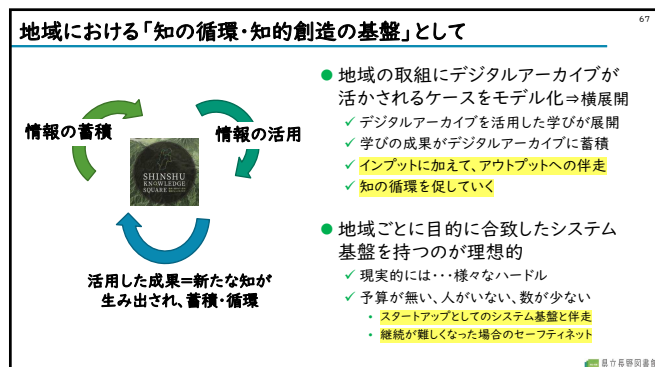
65

本日の内容

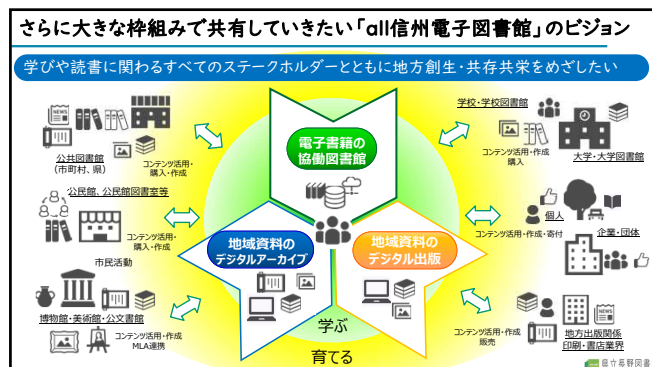
- 1 県立長野図書館がめざす姿
- 2 図書館どうしの連携・学校との連携
 - 市町村と県による協働電子図書館「デジとしよ信州」
- 3 文化施設・社会教育施設との連携
 - 信州 知の連携フォーラム
 - 地域情報資源のポータルサイト「信州ナレッジスクエア」
- 4 地域資源の価値共有による持続可能な地方創生を目指して

県立長野図書館

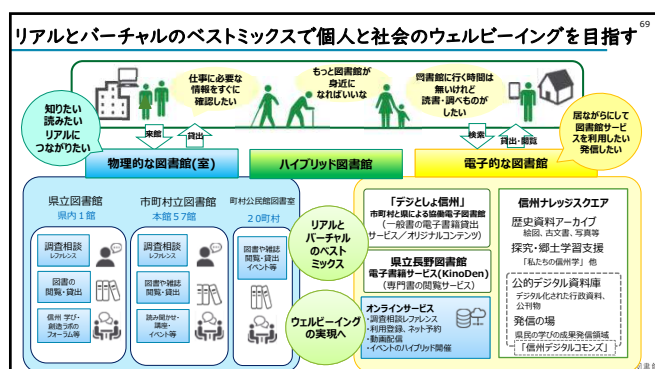
66



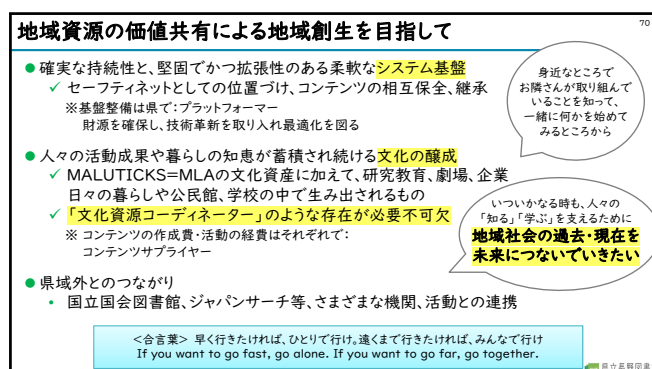
67



68



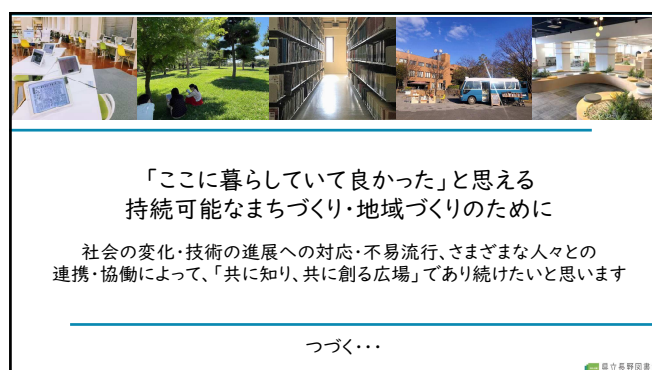
69



70



71



72